

富士市のユニバーサル就労をみんなで育てる情報紙

vol.9  
2019.10.30

# はたらくきずな

## パイロット事業所第3号に ケンコーマヨネーズ静岡富士山工場



富士市はユニバーサル就労に協力する企業の模範となる「パイロット事業所」第3号に、市内大淵のケンコーマヨネーズ株式会社静岡富士山工場を指定しました。

同社はマヨネーズやドレッシングなどの調味料、卵製品やお惣菜など業務用食品では国内最大のメーカーです。静岡富士山工場は厚焼き卵や錦糸卵など焼成たまごと呼ばれる卵製品を年間約9000トン以上製造している同社の基幹工場のひとつです。

同工場では社是にうたわれている「地域貢献」の実践として、ユニバーサル就労で就労体験を行った20代の男性を7月に、8月下旬には20代の女性もパートナース社員（※契約社員）として正式採用しました。いずれも対人関係が苦手という働きづらさを抱えていました。

市ではさまざまな働きづらさを抱える市民が、一般の事業所で働くことができるよう、これらパイロット事業所をwebサイトなどにもアップしています。

（4面に会社紹介）

## UW推進協で令和2年度以降の事業体制を提案

富士市ユニバーサル就労推進協議会の本年度第1回会合がこのほど、富士市役所で開かれました。平成30年度の市ユニバーサル就労支援センターの運営状況は、相談・問合せが105件、支援延べ件数72件、就職者数37人でした。支援した人を年代別にみると20代が20人と最も多く、次いで40代17人、50代12人などで80代も1人いました。支援者が抱える働きづらさでは「体調不良」16人が最も多く、次いで「コミュニケーションが苦手」「うつ・双極性障害」「仕事が続けられない」「高齢(65歳以上)」などと続きました。

企業との関連では同センターの新規企業訪問は153社、企業説明会11回(参加企業71社)、協力



企業47社(29年度の51社と合わせ98社)でした。

ユニバーサル就労広報室が実施している市民ネットワーク推進事業のうち、サポーター登録数は214人(29年度の210人と合わせて424人)、ウェブサイトのアクセス数は4万2784回、ブログアクセス数1万4259回でした。また講演会を2回開催。県内外からの視察は東京都、神戸市議会など合わせて15回に上りました。

令和2年度以降のユニバーサル就労推進事業体制について市生活支援課は、相談支援グループと就労支援グループの二本柱の体制とする新たな推進体制案を提案しました。これまでの体制が①市民にとって仕組みが分かりづらい②高い就労率を誇るユニバーサル就労支援センターの力を発揮できていない③「他の支援では就労が難しい方」という定義が対象者の自尊心を傷つける恐れがある一など課題が浮き彫りになったためです。

このため①フイランセ東館の複数の相談窓口を整理する②ユニバーサル就労支援センターの利用者が限定的であることを解消し、協力企業の活躍の場を増大させる③ユニバーサル就労支援センターという一つのセンターの中で、相談から就労支援まで完結させる一というの大きな流れです。

具体的には市が実施している

「ユニバーサル就労支援センター」と「くらし・仕事相談窓口」「福祉相談室」「いきやる」を統合したうえで、相談支援と就労支援の2グループに再編し、相談支援グループでは「就労準備」「生活についての相談支援」「経済的な自立を目指した支援」「就労相談」などを、就労支援グループでは「就労困難者への就労支援」「協力企業の開拓」「若者の就労支援」などを行うことにしています。

出席者からは「ワンストップ化することにより相談しやすくなる」「個別相談室が必要では」などの意見が出ていました。

## 東海地区障害学生支援フォーラムが静岡大学で開催

「ユニバーサル就労支援センター」も参加

東海地区(静岡・愛知・岐阜・三重)の高等教育機関等における障害学生支援の充実・発展を図る「東海地区障害学生支援フォーラム」が9月10日、静岡市駿河区の静岡大学静岡キャンパスで開かれました。9回目の今年は、オプション企画として県内就労支援機関と大学関係者の交流会もセットされ、富士市のユニバーサル就労支援センターが、自治体の相談支援機関としては唯一参加しました。フォーラムは午前のオプション

企画と午後のフォーラム(講演会とシンポジウム、分科会の3本立て)の2部構成。オプション企画の交流会には、障害者就業・生活支援センターや富士市ユニバーサル就労支援センターなど相談系が4機関、新卒応援ハローワークなど職業紹介系3機関、就労移行支援事業所など通所系12機関の19機関が17のブースを設けて大学の就職担当教員などと情報交換を兼ねて交流会を開きました。

富士市のユニバーサル就労支援センターのブースには、静岡大学、静岡県立大学、静岡文化芸術大学、常葉大学、静岡産業大学など県内の大学のほか、京都大学など他県からの参加者も訪れ、ユニバーサル就労の意味や支援の意義、具体的な運営状況などについて次々と質問が出ました。



市内の就労支援機関はこんなお仕事しています！

第2回

市内の就労支援機関「富士市キャリアデザイン支援室 fきゃる」

「富士市キャリアデザイン支援室 fきゃる」は市商業労政課の若者の就労支援が必要との思いから、平成23年にスタートし、今年で9年目を迎えます。運営する一般社団法人まちの遊民社の勝亦綾子さんは「当時は景気が悪くて、市内の大手企業でもリストラが話題になるような時でした。就職に悩む若者のキャリアデザインをサポートしていこう、というのが最大の目的でした」と話します。

相談は利用登録してからスタートしますが、新規登録者は23年度の78人から毎年のように増加し、29年度は186人を記録しました(30年度は155件)。これまでの登録者は1,114人

に上ります。また相談延べ件数も23年度の188件から、30年度は1,152件に急増し延べ相談件数は4,370件となりました。また就職が決まった相談者もこれまで321人を数えます。

平成30年度の新規登録者の内訳をみると、女性65%、男性35%と女性優位です。これはfきゃるが女性の就労支援に力を入れてきたことに加え、本年度から全年齢層に対象を拡大したのも理由の一つです。年代別では20代46%、30代31%と当初の目的に近いところが多くを占めていますが、10代や50代以上の方も多く見えています。無業の就活者57%、転職などを考える在職者31%もいます。

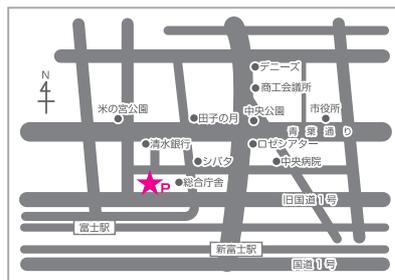
85%は就職相談で、中に応募書類の作成指導や面接対策、適職診断などを希望する方もいます。

相談に見える人はやりたい仕事も悩みも、それぞれ異なります。このためfきゃるにはキャリアコンサルタントなどの資格を持つ5人の相談員がいます。相談に訪れる人が一人一人違うため、5人の相談員はたとえば学生と公務員志望の方、子育て中の女性、ひきこもりやメンタルな悩みをお持ちの方など、それぞれ専門分野を活かして対応しています。このため毎月スキルアップのための研修会を実施しています。

相談員も務める勝亦さんは「就労支援はもちろん大切ですが、相談やカウンセリングを通じて本人の思いを聞き、問題や課題を見つけて解決につなげていくような、本人に寄り添った相談窓口にしようと思っています」と話しています。



- 富士市キャリアデザイン支援室 fきゃる
- 住所：富士市本市場 432-1  
富士市フィランセ東館 1F
- 電話：0545-32-6958
- 時間：月～金 8：30～17：00  
(休み：土日祝休日、年末年始)



利用者様が少しずつステップアップし、出来ることが増え、笑顔が出るようになり、企業の皆様も暖かく見守って下さるというユニバーサル就労支援の輪が広がっていくよう、全力で取り組んでまいります。

合同企業説明会では、協力企業の担当者様から、毎回講話をして頂いています。その中には企業内の雰囲気や、優しくなると感じていただける企業様の講話もありました。

またユニバーサル就労の認知度が、まだまだ低いと感じる中でも、ユニバーサル就労支援合同企業説明会には、多数の企業様に参加して頂き、9月17日現在、122社の企業様に認定協力企業として登録を頂いております。

働きづらさを抱えた方の就労支援(協力企業様への職場見学・就職後の定着支援まで)、一人ひとりに合わせた進み方、支援方法で取り組んでおります。



就労支援員  
山本 徹 さん

支援センターから

パイロット事業所

## ケンコーマヨネーズ株式会社 静岡富士山工場

### 「仕事出来ることがありがたい」

ケンコーマヨネーズ静岡富士山工場で、職場見学を経て契約社員として採用されたのは市内在住のAさんです。Aさんは周囲とコミュニケーションを取るのが苦手で、同社に来るまでは、ユニバーサル就労の一環として市役所で事務の仕事をしていました。Aさんが担当する仕事は出来上がった卵製品を箱詰めする最終工程の部分です。サッカーで言えばゴールキーパーのような大切なパートですが、周囲との交流もよかったのか、最近では対人関係にも少しずつ気配りができるようになってきたそうです。牧立也・執行役員統括工場長は「初めに合った時は下向きだった目線が、最近では上向きになってきました」と微妙な変化を喜んでいきます。

長は話します。

Aさんは「市役所で働いていた職場体験という感じでしたが、今は働いているということを実感しています。以前は家にいるのが当たり前で何もすることがありませんでしたが、今は仕事ができることがありがたいと思っています」と満足そうでした。

市役所から認定証を授与された同社では、「特別支援学校の卒業生をずっと採用してきましたので、A君についても特に問題となるようなことはありませんでした。A君は入社以来一度も休んだことがありません」と仕事ぶりを評価しています。同工場では8月下旬に、2人目のユニバーサル就労のパートナー社員として若い女性の採用も決まりました。今後も採用を続けたい、とのことでした。

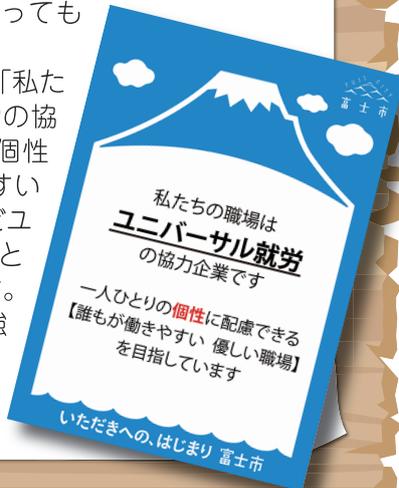


ケンコーマヨネーズ株式会社  
静岡富士山工場  
牧工場長

## 協力企業のポスター作成

富士市はユニバーサル就労を支援する企業・事業所を訪れる人などに、この企業・事業所がユニバーサル就労推進事業への協力企業であることを示すポスターを作成し、協力企業に配布しました。多くの市民に協力企業が身近にあることを知ってもらうのが目的です。

ポスターは A2 判の縦型。「私たちの職場はユニバーサル就労の協力企業です」「一人ひとりの個性に配慮できる【誰もが働きやすい職場】を目指しています」などユニバーサル就労の理念と企業としての決意をうたっています。富士市の事業であることを強調するよう水色を基調に市のロゴマークを入れています。



### 1月に市役所2Fで 協力企業パネル展

富士市内のユニバーサル就労協力企業を紹介するパネル展が、1月7日から31日まで富士市役所2階の市民課ロビーで開かれます。展示するのは協力企業122社（9月末現在）のうちの約60社。会社の所在地や従業員数、事業内容

などの会社概要、経営理念や「我が社の自慢」など会社のセールスポイントを掲載します。誰もが働けるまちを目指すユニバーサル就労事業にとって、働く場を提供していただける企業は不可欠です。パネル展は市民の皆さまにどんな企業が協力してくれているか、知っていただくのが目的です。

■ 8月の有効求人倍率（ハローワーク富士管内）：1.45倍 前月比 +0.02ポイント 前年比 -0.16ポイント